

第 20 回原子力委員会定例会議議事録（案）

- 1．日 時            2003 年 7 月 1 日（火）10：30～11：30
- 2．場 所            中央合同庁舎第 4 号館 7 階 共用 743 会議室
- 3．出席者           藤家委員長、遠藤委員長代理、竹内委員  
                      内閣府 永松審議官、榊原参事官（原子力担当）  
                      経済産業省 原子力安全・保安院 原子力発電安全審査課  
                      山本統括安全審査官、小原統括安全審査官、岩永審査班長  
                      文部科学省 基盤政策課 倉持課長、長瀬企画官
- 4．議 題
- （1）日本原子力発電株式会社東海発電所の原子炉の設置変更について（答申）
  - （2）日本原子力発電株式会社東海第二発電所の原子炉の設置変更について（答申）
  - （3）四国電力株式会社伊方発電所の原子炉の設置変更（1 号、2 号及び 3 号原子炉施設の変更）について（一部補正）
  - （4）技術士試験における「原子力・放射線」部門の設置について
  - （5）藤家委員長の海外出張報告について
  - （6）その他
- 5．配布資料
- 資料 1 - 1    日本原子力発電株式会社東海発電所の原子炉の設置変更（原子炉施設の変更）について（答申）（案）
  - 資料 1 - 2    日本原子力発電株式会社東海発電所原子炉設置変更許可申請（原子炉施設の変更）の概要について
  - 資料 2 - 1    日本原子力発電株式会社東海第二発電所の原子炉の設置変更（原子炉施設の変更）について（答申）（案）
  - 資料 2 - 2    日本原子力発電株式会社東海第二発電所の原子炉の設置変更許可申請（原子炉施設の変更）の概要について
  - 資料 3 - 1    四国電力株式会社伊方発電所の原子炉の設置変更（1 号、2 号及び 3 号原子炉施設の変更）について（一部補正）

- 資料 3 - 2 四国電力株式会社伊方発電所の原子炉設置変更許可申請書( 1 号、  
2 号及び 3 号原子炉施設の変更)の一部補正について
- 資料 4 - 1 技術士試験における「原子力・放射線」部門の設置について
- 資料 4 - 2 技術士試験における技術部門の見直しについて( 答申)
- 資料 5 藤家委員長の海外出張報告について
- 資料 6 第 1 9 回原子力委員会定例会議議事録( 案)

## 6 . 審議事項

- ( 1 ) 日本原子力発電株式会社東海発電所の原子炉の設置変更について( 答申 )
- ( 2 ) 日本原子力発電株式会社東海第二発電所の原子炉の設置変更について  
( 答申 )

標記 ( 1 ) の件について、山本統括安全審査官より資料 1 - 2 に基づき説明があり、以下のとおり質疑応答の上、平成 1 5 年 3 月 3 1 日付け平成 14・12・26 原第 3 号をもって諮問のあった件に係る核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律第 2 6 条第 4 項において準用する同法第 2 4 条第 1 項第 1 号、第 2 号及び第 3 号 ( 経理的基礎に係る部分に限る。 ) に規定する許可の基準の適用については妥当なものと認め経済産業大臣あて答申することを決定した。

また、標記 ( 2 ) の件について、山本統括安全審査官より資料 2 - 2 に基づき説明があり、以下のとおり質疑応答の上、平成 1 5 年 3 月 3 1 日付け平成 14・12・26 原第 4 号をもって諮問のあった標記の件に係る核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律第 2 6 条第 4 項において準用する同法第 2 4 条第 1 項第 1 号、第 2 号及び第 3 号 ( 経理的基礎に係る部分に限る。 ) に規定する許可の基準の適用については妥当なものと認め経済産業大臣あて答申することを決定した。

( 竹内委員 ) グラファイト・スリーブを焼却処分する発電所は東海発電所だけなのか。また、焼却の際の熱源としてグラファイト・スリーブを使用するのか。グラファイト・スリーブ自身の最終処分はどうなるのか。

( 山本統括安全審査官 ) グラファイト・スリーブを燃やす発電所はここだけである。グラファイト・スリーブを主な熱源として使うというわけではなく、それを廃棄物として焼却処分しつつ熱源にも利用している。グラファイト・スリーブは、全量が焼却処分される予定である。

(藤家委員長)「東海発電所」という名前はいつまで残ることになるのか。  
(山本統括安全審査官)廃止されるまで残ることになる。

( 3 ) 四国電力株式会社伊方発電所の原子炉の設置変更( 1 号、 2 号及び 3 号  
原子炉施設の変更)について(一部補正)

標記の件について、小原統括安全審査官より資料 3 - 1 及び 3 - 2 に基づき説明があった。

( 4 ) 技術士試験における「原子力・放射線」部門の設置について

標記の件について、倉持課長より資料 4 に基づき説明があり、以下のとおり質疑応答があった。

(遠藤委員長代理)技術士試験は昭和 3 2 年から行われているようだが、何人くらいの登録があるのか。

(倉持課長)約 5 万人の登録がある。現在、日本には 2 4 0 万人の技術者がいると言われているが、技術者の数と比べて技術士の人数は非常に少ない。経緯としては、昭和 3 2 年当時、技術コンサルティングをやるには、公的機関の証明がある方が良いという理由から、始まった制度である。企業に勤めている方が、技術者としての資格を取るために試験を受けることが多いが、分野によっては、この資格を持ってもあまり実益につながらない面があるので、あまり知名度がないのかもしれない。

(遠藤委員長代理)英語で何というのか。

(倉持課長)以前は「Consulting Engineer」と言ったが、今は「Professional Engineer」と言う。

(竹内委員)原子力に関して、このような資格ができて良かったと思う。二次試験の科目の選択について、「核燃料サイクルの技術」が試験科目としてあげられたことは良いことだと思う。放射線の利用と防護は仕事上も分かれているものであるため、試験科目でも分けてほしい。

(藤家委員長)受験するときは何科目選ぶことになるのか。

(倉持課長)5 科目の中から 1 科目選択することができる。技術を確認するためにはどうしたら良いかなどに関しては、学会や専門の先生方を中心に議

論して進めているところである。

(竹内委員)原子力技術者の資格に関する仕組みができると、技術者たちも活性化すると思う。

(藤家委員長)今まで原子力関連の国家資格は、原子炉主任技術者、放射線取扱主任者ということで、原子力と放射線を分けていたが、これらがつながるということは、とても良いことだと思う。今回新たに設置された技術士の役割と従来の国家資格の役割はどう変わるのか。相互の関係について何か考えているのか。

(倉持課長)それに関しては、一次試験免除等を考えているが、具体的な設計は実績を見ながら相互に認め合う形にしていきたいと思っている。

(藤家委員長)今後も発展していくように、原子力委員会も協力していきたいと思う。

#### ( 5 ) 藤家委員長の海外出張報告について

標記の件について、藤家委員長より資料 5 に基づき説明があり、以下のとおり質疑応答があった。

( 遠藤委員長代理 ) 韓国はウラン濃縮や再処理をしたいという希望をもっている。韓国がプルトニウムを扱うことは、米韓原子力協定でできないことになっているはずであるが、高速炉をどのようにやっていくのか。

( 藤家委員長 ) デザイン・スタディーに近いところを行っていると思う。

( 竹内委員 ) 高速炉サイクルについては、国際的に長年にわたって再開が切望されている。国際的共同研究プログラムの実施に関する共同声明について議論されているようだが、どのような議論されたのか。

( 藤家委員長 ) 現在は、一国だけで何かをやる時代ではない。高速炉のような将来にまたがる研究開発については、国際協力で、お互いが持っている資源を活用しながらやっていかなければならない。現在、使用できる高速炉を持っているのは、フランスのフェニックスとロシアの BN - 600 と日本の「もんじゅ」だけである。将来性を考えれば「もんじゅ」が一番良いと考えられる。「もんじゅ」は日本のプロジェクトとして進めるが、その際、各国に参加してもらって国際協力プログラムをつくるという形態が考えられる。いずれジョイント・ステイトメントの形でまとめようということまで話が進んでおり、各国が検討に入ったところである。

( 竹内委員 ) 国際的な要望に答えるように、日本の条件整備をしていかない

といけない。

（藤家委員長）日本もそろそろ脱皮して、国際協力をきちんとできるようにしないとけない。ジョイント・ステイトメントの第一段階として、研究所長レベルあるいは局長レベルでは既に出している。今度はレベルアップし、いわゆる政策に責任を持てるレベルで話し合いを進めたいと思う。

（６）その他

- ・事務局作成の資料６の第１９回原子力委員会定例会議議事録（案）が了承された。
- ・事務局より、７月８日（火）に次回定例会議の議題は「日本原子力産業会議の人材育成に関する報告書について」及び「市民参加懇談会 in 敦賀の結果について」等を中心に調整中である旨、発言があった。